

精神障害者も禁煙できる

精神障害者の禁煙は難しいとされてきたが、適切な治療をすれば、精神障害者も禁煙できる。また入院がん患者らへの禁煙支援が有効だ。こうした実例が、二月に和歌山市で開かれた日本禁煙推進医師歯科医師連盟の学術総会で報告された。

禁煙の効果大

精神障害者への禁煙治療効果を講演で指摘したのは公徳会トータルヘルスクリニック（山形県南陽市）の川合厚子院長。



川合厚子・公徳会トータルヘルスクリニック院長

「たばこを吸っていると、姿勢を見せた。禁煙治療の成果は一般患者より低い。三人に一人は一年後も

治療環境を変革

ただ、禁煙でうつ病などが悪化する恐れもある。川合さんは「精神障害の病状が安定しているかなど、十分に注意しながら禁煙治療を進める必要がある」と話し、認知行動療法を併用して①相手を受け止める②頻繁に診る③禁煙補助薬を使

禁煙を続けていた。禁煙できたときの笑顔はすてきという。精神障害者は生活困窮者が少なくない。食費を切り詰めてたばこ代に充てる人もいるほどで、経済的メリットからも禁煙外来を訪れる精神障害者が増えているという。

褒め方上手

「うー」などを指摘する。精神科以外で禁煙治療する際は、患者の精神科治療歴を聞き、精神科治療が望ましい。家族の支援も役立つ。診察で「頑張ったね」「その調子」と褒めるのも大事という。褒めると患者は明るくなる。

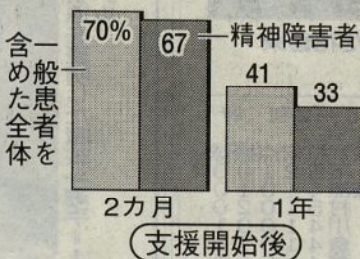
入院患者への禁煙支援も重要だ。大阪府立成人病センターは二〇〇五年に禁煙を促すチェックシートのような簡単な「禁煙支援クリニカルパス」を作成した。入院が決まった日と入院日、退院日に看護師が四、五分話して「禁煙すれば治療効果が上がります、治療後の経過も良くなる」と伝える。

医師では精神科医の喫煙率がずばぬけて高い。患者も医療者もたばこを吸い合っている。煙がもくもくする中で治療するのが普通だった。精神科病院でも禁煙が少しずつ広がりはじめた。全国で十数カ所が敷地内禁煙に踏み切り、中には、沖縄県糸満市の南山病院のよう

このクリニカルパスで禁煙支援を徹底すると、二倍ほど禁煙しやすくなることを大阪府立成人病センター調査部の田中政宏医師らが発表した。禁煙成功率は、肺がんなどたばこ関連がんほど、男性患者ほど高かった。

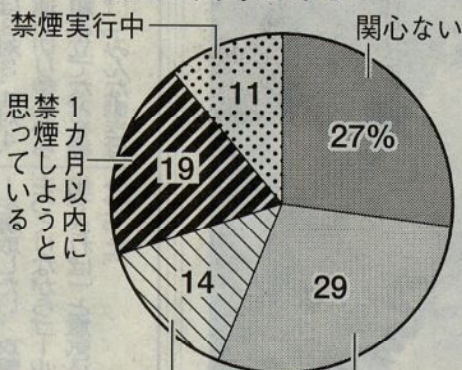
禁煙支援による男性の禁煙成功率

(公徳会佐藤病院)



要になり、副作用も出やすい。喫煙者は二倍以上うつ病になりやすい。精神障害者ほど禁煙するメリットは大きい。楽にやめられる方法があつて応援することを話すと、禁煙を希望する精神障害者は意外に多い」川合さんが公徳会佐藤病院で精神障害者に調査したところ、禁煙に無関心な人は27%にとどまり、30%は禁煙に取り組むか、その

禁煙に興味はあるか



がえてあ考は禁煙したいが1カ月以内禁煙しないと思わない (精神疾患を持つ喫煙者150人へ調査。川合厚子(公徳会トータルヘルスクリニック院長)による)

禁煙クリニカルパスは病院全体に影響した。敷地内は禁煙だが、街頭に出て吸ってこる入院患者はまだいる。同センター看護師の古賀智影さんは「見て見ぬふりせず、短時間でも職員がそれぞれの立場で禁煙を勧めるようになった」と話した。